

FOA-NEWS 号外

(World Cup 号) 2007/8/25

「本日 15 時には雨と風のピークは過ぎる見込みとなりましたので決勝戦は 15 時キックオフで予定通り開催いたします」



7月15日の朝8時から召集された実行委員会の冒頭に浅田 WC 実行委員長から実施宣言があったときに本当に助かったと思いました。

2年前から準備を始めて肝心の決勝戦が台風で中止になったらどうしようというのが WC 関係者全員の気持ちでした。

関東審判部の皆さんの熱いご支援もあり予選は雨の中でも順調に進みましたが順位決定戦の7月14日、15日に季節はずれの台風が来るとは思っても見ませんでした。

15日は気象庁の予想通り朝の実行委員会終了後の等々力はかなり雨量でしたが徐々に雨が上がり試合前には太陽も顔を出してくれました。

決勝で日本チームは残念な結果でしたが私ども実行委員にとっては実施できたということと1万人以上の観客がお越しいただけたことで胸がいっぱいでした。

皆さん、本当にご協力ありがとうございました。

ワールドカップ実行委員 伊藤 義樹

試合結果

- 7月 6日(金): 等々力アリーナ
18:00~20:00 前夜祭
- 7月 7日(土): 等々力陸上競技場
18:15~10:46 日本48 vs. 0フランス
- 7月 8日(日): 川崎球場
17:00~19:15 ドイツ32 vs. 2韓国
- 7月10日(火): 川崎球場
15:00~17:05 フランス14 vs. 16スウェーデン
19:00~21:17 韓国0 vs. 77アメリカ
- 7月12日(木): 川崎球場
15:00~17:29 アメリカ33 vs. 7ドイツ
19:10~21:22 スウェーデン0 vs. 48日本
- 7月14日(土): 川崎球場
15:00~16:59 5位決定戦 韓国3 vs. 0フランス
19:00~20:47 3位決定戦 ドイツ7 vs. 0スウェーデン
- 7月15日(日): 等々力陸上競技場
15:14~17:47 決勝戦 日本20 vs. 23アメリカ



以上

クルーから

2003年のフランクフルトに引き続き、「第3回アメリカンフットボールワールドカップ2007川崎大会」に審判員として参加させていただきました。

私個人としては、フランクフルトというアウェイで初めての経験であった前回と比べると、勝手知ったる川崎球場、前回も一緒にクルーを組んだスウェーデンのレフリーやフランスの審判達、そして関東審判部を中心とした運営やサポートクルーの皆様のおかげで、かなりスムーズにオフィシエーティングができたのではないかと思います。

今回、初めて様々な国や地域の審判との混成クルーによる国際試合を経験して、最も難しいと感じた点は、短期間で異なるメカニクに適応し、クルーの意思疎通を図らなければならなかった点です。事前に綿密なミーティングを実施していたにも拘らず、ゲーム中にメカニクの相違点やクルーの「癖」を新たに発見し、その都度適応していかなければなりません。これには、ルールを正しく理解し、どのプレーでは何を判定しなければならないか、そのためには誰がどこで何を確認すればよいかを理解していることが重要であることを実感しました。

また、Bill LeMonnier氏を始めとする偉大な審判から多くのことを学びました。

一つは、ゲームコントロールの重要性です。審判の毅然とした、かつ選手を敬う態度が、チームとの信頼関係を築く上で重要であることを再認識しました。また、危険な反則は必ずコールし、疑わしい場合には必ず選手に声をかけて未然に予防することや、大差がついた後は危険でなくゲームの流れに影響しない反則はコールしない、といったことがミーティングで明確に指示されるなど、ゲームをスムーズに進めるためのコントロールが強く意識されていました。

予選と本選で、FJとして3試合を担当しました。

本選のアサイメントも含めて、最後までスケジュールは直前発表でしたが、問題もなく(?)全員がゲームを楽しみながらオフィシエーティングができたと思います。それには、動きの良さに感動を与え、Flying Chain Crewと賞賛されたように、サポートクルーの皆さんのおかげだと思います。

ミーティングは、ルールのこともありましたが、「Good Position, Good Call」と言われているようにメカニクのことが多く確認されました。ですが、第1戦で、私はキックオフリターン中の位置が悪かったため反則を視認できず、フェイスマスクをコールできなかったという失敗をし、あらためてポジショニング

とは言っても、大小さまざまなミスをし、改めてスプリットクルーの難しさ、国際試合の難しさを実感しました。

そして今回初めてWCに参加した3人のアメリカの審判がどんなタフな状況でも顔色ひとつ変えずに適切な処理をしていたことに感服しました。今後少しでもこの体験を皆様とも共有し、関東審判部そして日本のアメリカンフットボールの発展に寄与していきたいと考えています。皆様、お疲れさまです。ありがとうございました。

関東審判部 田中 淳夫

もう一つは、彼らのルールを深く理解しゲームに備えようとする姿勢です。LeMonnier氏のクリニックでも話がありましたが、一つのプレーから「もしこういう展開になっていればどうするか」といった様々なバリエーションを想像し、その正しい施行方法を考えるということを常に行っていれば、実際のゲームで何が起こっても慌てずに対応できる、という話を何度も聞きました。ただルールを覚えるだけではなく、このような努力の積み重ねによって偉大な審判が生まれることがわかりました。

最後になりますが、今回の大会中、私自身、オフィシエーティングを心から楽しむことができました。これは、実行委員会や関東審判部を始めとする全ての関係者の方々のご尽力の賜物であり、ゲーム当日のサポートクルーの方々非常に質の高い仕事で支えて下さったおかげだと思います。全ての関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。今回の貴重な経験を様々な機会に皆様にお伝えし、フットボールの発展に少しでも貢献することが私の役割と考えております。今後ともよろしく願い申し上げます。

関東審判部 川田 丈浩

の大事さを痛感したしだいです。心の中では、「BJ!、コールしてくれえ!」と叫んでいましたが、今後に生かさなければならぬ貴重な経験でした。(基本は普遍ということですね。)

各国の審判と交流して、「審判は審判=審判バカ」だなと感じました。時間があれば審判の話をしていました。将来、このような国際交流試合が増え、いろいろな審判バカと交流する機会が増えることを願っています。

関東審判部 七久保 裕哲

同じ一つのルール、メカニック、ジャッジの基準。これらが、フィールドに出た瞬間に、今まで一緒にやった事のない審判員7人を、あっという間にクルーにしてしまう。そんな感覚を体感できた12日間でした。

日本や米国のものとは少し違った、ヨーロッパ流と言ってもよいメカニック、ジャッジの基準(ルールの適用)ではありましたが、何を守るべきかをピーターが明確に示す事で、審判19人が一つになったワールドカップでした。

ヨーロッパの10人、米国の3人、韓国の3人、日本の3人、それぞれに一流の19人が、共に支えあい、学びあったこのワールドカップ。

初日から打ち解けて、誰かが言っていた、「審判で、嫌なやつに出会ったことが無いな。」という言葉を実感しました。本当に、あっという間に仲間になってしまふ。一流の審判だからこそなのか、人間としても一流であることがそうするのか。

そんな彼らから、「こんなに素晴らしいサポート・クルーに支えてもらった事なんか一度も無い。素晴らしいクルーだ。」という言葉を受取った事、我々の大きな誇りです。

ワールドカップ組織委員 東 俊

World Cup 関連全体スケジュール

- 6月30日(土) 支援スタッフ説明会実施
- 7月 3日(火) 韓国代表選手団入国
- 7月 5日(木) 韓国以外の代表選手団、審判団入国
スウェーデン、ドイツ、フランスはアミノで練習
- 7月 6日(金) 韓国審判団入国
18:00~20:00 ワールドカップ前夜祭:等々力
- 7月 7日(土) 08:00~09:30 運営部会ミーティング
09:30~ 審判団ミーティング
支援スタッフ補講実施
18:10~21:00 日本 vs. フランス
- 7月 8日(日) 08:00~09:30 運営部会ミーティング
09:30~ 審判団ミーティング
支援スタッフ補講
14:00~16:00 レフリークリニック: Bill LeMonnier 氏クリニック
川崎市教育文化会館6階大会議室
17:00~20:00 ドイツ vs. 韓国
- 7月 9日(月) 審判団休息日
- 7月10日(火) 08:00~09:30 運営部会ミーティング
09:30~ 審判団ミーティング
15:00~18:00 フランス vs. スウェーデン: 川崎球場
19:00~22:00 韓国 vs. アメリカ: 川崎球場
- 7月11日(水) 審判団休息日
18:00~20:30 浅田委員長と審判団の会食
- 7月12日(木) 08:00~09:30 運営部会ミーティング
09:30~ 審判団ミーティング
15:00~18:00 アメリカ vs. ドイツ: 川崎球場
19:00~22:00 スウェーデン vs. 日本: 川崎球場
- 7月13日(金) 審判団休息日
- 7月14日(土) 08:00~09:30 運営部会ミーティング
09:30~ 審判団ミーティング
15:00~18:00 5位決定戦: 川崎球場
19:00~22:00 3位決定戦: 川崎球場
- 7月15日(日) 08:00~09:30 運営部会ミーティング
09:30~ 審判団ミーティング
15:10~18:00 決勝戦: 等々力
- 7月16日(月) 選手団、審判団離日



ワールドカップ支援スタッフ

2007・FOA・EAST

NO.4.Z版

2007/07/15

	TIME	Ground	Game	CO	T	25	MD	MC	MC	BP (M)	BP (M)	TA (M)	TA (Sub)	備考	
				Sub-CO			CM	SD	SS	BP (B)	BP (B)	TA (B)	TA (Sub)		
7月7日 土	18:10	等々力陸上競技場	フランス	日本	東俊 (大塚泰宏)	田口真行	中内克行	山根庸平	波田哲二	塩谷慶太郎	宮田泰平	吉田浩	根岸作力	根岸作力	
7月8日 日	17:00	川崎球場	ドイツ	韓国	國崎智明	井上知行	市川幸春	北文彦	永井正二	梅田健	奥山正人	平沢幸一郎	大塚泰宏	國崎智明	シャペロン：宮島敦史
7月10日 火	15:00	川崎球場	フランス	スウェーデン	馬島敦	宮島敦史	北文彦	大長英雄	岡本輝義	十河孝雄	遠藤昌春	伊藤隆仁	傍嶋隆史	福原隆一	根岸作力、十河孝雄
	19:00		韓国	アメリカ	國崎智明 (根岸作力)	根岸作力	山本鉄雄	斎藤英樹	菅野玉川	白井健二	茂出木茂春	宮田泰平	宮田泰平	須田喜一郎	シャペロン：大塚泰宏
7月12日 木	15:00	川崎球場	アメリカ	ドイツ	根岸作力	藪内直樹	常守康昌	花岡静夫	甲斐淳介	丸川成昭	吉野修一	菅野修一	久志野臣史	小原正敬	シャペロン：北文彦
	19:00		スウェーデン	日本	大塚泰宏	喜入博	鈴木啓友	青木順	東郷竜二	前川倫宏	永井宏治	上兼由之	大塚泰宏/宮島敦史		
7月14日 土	15:00	川崎球場	フランス	韓国	國崎智明	潮俊之	佐藤泉	丸川成昭	十河孝雄	椛本英生	中原光弘	古川尚	北文彦		5位決定戦
	19:00		ドイツ	スウェーデン	田口真行	井上知行	白井健二	富田啓輔	永井正二	辻琢磨	斎藤幸申	幸村益利	(田口真行)		3位決定戦
7月15日 日	15:10	等々力陸上競技場	アメリカ	日本	國崎智明	阿部浩司	山田隆市	平沢幸一郎	根岸作力	北原隆朗	石原卓	田中達	常守康昌	北文彦	決勝戦

注意事項

1. 自分のアサインメントを確認のこと。(同姓者・他ポジションに注意) 穴あけをした場合は、すぐに國崎理事に連絡すること。
2. 試合時間は注意して確認すること。特に自家用車利用の際は特に注意。
3. 集合時間は守ること。
4. 計時員、チェンクルー、ボールパーソンは、審判用具一式を持参し替えること。ただし、ゼブラシャツの替わりに白ポロシャツを着用してください。
5. コーディネイター、タイマーアシストは黒キャップ、白ポロシャツ、スラックス(紺、グレーまたは黒)、スニーカー(踵のない靴)を着用すること。
6. 自宅と競技場の往復の際の服装としてTシャツ、半ズボン、ジーンズ、サンダル履き等のラフなスタイルは避け、襟付きシャツ、スラックス、普通の靴を着用すること。世界から注目されることを忘れないよう行動すること。
7. その他事項は、2006年度版「レゾナマシヨナル」(Version : 18.0) を遵守すること。

シャペロン。

ドーピング検査を受けることが決まった選手にその旨を通告し、彼に付き添って(不正行為が無いように)彼をドーピング検査室に連れて来る人のことを言います。初めて聞いた名前でした。FOAからも、私を含めて数名がシャペロンを担当しました。私は7月8日のドイツ対韓国戦を担当しました。今回は、ドーピング担当の川原 貴先生(国立スポーツ科学センター)の指揮の下、3人一組のシャペロンが組織され、FOAからの3名(宮島敦史、根岸作力、十河孝雄)が一組になって、韓国チームを担当しました。

今回のドーピング検査は、毎試合各チーム3名ずつ、検査を受ける選手がハーフタイム後に無作為に決定されました。その3名に試合終了直後にドーピング検査を通告し、彼らにドーピング検査室まで付き添います。私たちは、母国語が英語でないチームの選手へ通告することになったので、非常に緊張したが、今大会

ドーピング検査を受ける選手も大変です。検査のために、試合終了後から1時間以上拘束されていました。彼らには、検査を担当する医師から、通訳を介してドーピングのことが説明されていましたが、英語を母国語としない選手ばかりで通訳もままなりません。やむなく大会の語学ボランティア(韓国語を操る若い女性)に来てもらい、「出るまでいっぱい水を飲んで!」「一度に75ml 出ないと、やり直したよ!」などと、仕事とはいえ「恥らい」もなく(?)通訳してもらいました。見ていた私の方が、少し恥ずかしくなりました。ドーピング検査自体は医師団がやるので、ある程度検査が進むと、シャペロンの任務自体は終了しました。私たちも試合終了後1時間弱で、任務が終了し解散となりました。

私がフットボールに関わって、15年目(選手4年+審判11年)になります。やや余談めきますが、日

関東審判部 十河 孝雄





2007年7月16日

御 礼

謹啓

盛夏の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、ありがたく厚く御礼申し上げます。

国際アメリカンフットボール連盟主催「第3回アメリカンフットボール世界選手権 2007 川崎大会（ワールドカップ）」は、皆様方のお力添えを頂きお蔭様で大会期間中、多数のお客様にご来場戴き、又出場選手諸君においては恙無く活躍され功裡に終了することができました。

誠にありがたく、実行責任者として心より厚く御礼申し上げます。

本大会を日本で開催することが決定した 2005 年 11 月からの一年半は準備に余念が無いうちにあっという間に過ぎ去り閉会式そして表彰式を迎えることとなりました。あまりの時間の経過の早さに今更ながら感嘆しております。

本大会は、第1回イタリア大会・第2回ドイツ大会で優勝した日本にとっては2連覇中の王者として奢ることなく謙虚に世界に向けての「ご恩返し」にしたいとの思いを込めて大会運営を司りました。

過去二回の大会では地域紛争勃発等のために不参加であった米国チームが今大会は初の参加となり、精鋭チームを送り込んできました。さすがにアメリカンフットボールを国技とする国のチームだけあってパワフルかつスピード感溢れる高い能力は、目を見張る素晴らしいものを感じました。対する日本代表も2連覇の栄光に慢心すること無く入念な準備を行ない、世界を代表する各国選手団と対戦するものとなりました。

また、開催都市である川崎市に於いては阿部孝夫市長率いる全職員の皆様、支援委員会委員長の長澤明彦川崎商工会議所会頭はじめとする支援委員会並びに川崎市民の皆様のご尽力とご支援を賜り何とか恥ずかしくない大会を運営することが出来たとの評価を戴き、心より感謝申し上げます次第でございます。

本大会終了後の私共の課題はさらなるアメリカンフットボールの普及振興、川崎市アメリカンフットボールタウン化構想の具現化に向けての連動活動そして、アジアでのさらなる理解者を増やして行く等々、重要且つ重大なテーマを目指して活動することでございます。

本来ならばお一人お一人に対し、ご挨拶に参上すべきところではございますが取り急ぎ寸書にて御礼申し上げます失礼の段お許し下さるようお願い申し上げます。

末筆ながら皆様方の益々のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

謹白

第3回アメリカンフットボールワールドカップ 2007 川崎大会

大会組織委員長 山縣 平蔵

実行委員長 浅田 豊久

関東審判部部員の皆様へ

今回のワールドカップは、決勝戦で日本と米国が相見え、米国の優勝で9日間に渡る熱戦の幕を閉じました。台風直撃という荒天の中も含めて、9試合合計33,312名もの観客がスタンドに足を運んでいただき、皆様のお陰で、ワールドカップ川崎2007が成功裏に無事終了できました。

この間、9試合を経験しましたが、103名のボランティアの皆様と31名107枚を超えるチケット購入のご協力を得ました事、心からお礼申し上げます。また、応援ありがとうございました。

特に、連日、試合の支援スタッフとして、平日には仕事をお休みいただき、雨の日もいとわずにご協力をいただきましたこと、言葉では表せないほどの感謝をいたしております。

各国の審判からも、「私の審判経験の中で、これほど素晴らしいスタッフと共に審判が出来た事はない。本当に素晴らしいスタッフ達です。何の問題もありませんでした。」との賞賛の言葉を、毎試合頂戴しました。この言葉は、我々の質の高さを示すものとして、誇りに思います。

この経験を糧に、さらに審判技術を磨き、日本のフィールドで発揮する事が、我々に課せられた課題であろうと思います。このワールドカップで得たものを、是非、皆さんの血とし肉としていただきたいと思います。

関東審判部の皆様、本当にありがとうございました。2007年7月16日ワールドカップを終えて

関東審判部部長 東 俊



【報告】Bill LeMonnier 氏によるクリニック

関東審判部 川田 丈浩

日 時：2007年7月8日(日) 14:00～16:00

会 場：川崎市教育文化会館6階大会議室

参加者：65名(関東審判部のみの人数) Rick Nelson 氏と Billy Beckett 氏も傍聴

内 容：

1. 講義「Judgment in Officiating」

審判技術を向上させるために必要な(持って生まれた才能以外の)7つのものについて。

(1) Initial entry-level skill

- 視力、聴力、体力などの身体的な状態。

(2) Knowing and understanding the rules of the game

- 自分だけでできるものではない。尊敬できる、ルールに精通した審判と話をしたり、テストなどの教材を使ったりして、向上させることができる。
- ルールを理解すること。何のためにそのルールがあるのか、または変更されたのか。それが試合にどう影響するのか。
- シーズン中や試合の日だけに考えればよい、というものではない。時間がかかるもの。

(3) Good mechanics

- 正しく判定するためには正しい位置にいないといけない。

(4) Experiences with the game

- 審判としての経験を積み重ね、一つずつステップを上がっていかなければならない。
- プレーやコーチの経験は役立つが、それらがなくても優れた審判になることは可能。
- 頻繁に経験できることはよいが、滅多に遭遇しない状況に備えるにはどうすればよいか。そこで重要なのが「The Inner Game of Officiating」である。
- 目を閉じて様々なプレーを想像し、自分が正しい位置にいて正しく判定できるシーンを思い浮かべる。必ず完璧に判定できている状態を練習すること。こうすることで、滅多に起こらないことが起こっても、驚くことなく冷静に対応できる。

(5) Mentors

- 優れた審判になるためには、間違いを指摘し批判してくれ、より良い審判になるための手助けをしてくれる、優れた指導者が必要。

(6) Coach-ability

- 指導者からの批判やフィードバックを受け入れられることが必要。

(7) People skill

- 試合は選手やコーチ、ファンのためのものであり、我々はその監視者にすぎない。
- 選手やコーチに敬意を持って接することで彼らも審判に敬意を持つようになる。

<http://www.usafootball.com> の Officiating→Officiating Library に記事あり。



2. 映像によるクリニック「Unusual Plays」「Catch/No Catch」

3. 質疑応答

Q1 (映像によるクリニック中、ゴールラインに FJ が立ってエンドゾーン内のパスキャッチの判定をしたプレーについて) TD の判定をする際に LJ とアイコンタクトを取っていないが、これでよいのか？

A1 FJ と LJ の間で起こったことについてはアイコンタクトを取る必要があるが、FJ から見て LJ と反対側で起こったことなので、FJ が自らの責任で判断しなければならない。

Q2 日本 - フランスの第 3Q 終了後にクルーが集まっていたが、何を話していたのか？

A2 既に勝敗は決まっていたので、危険な反則以外は見逃すように指示した。

Q2-1 そうすることで日本のベンチから不満は出なかったか？

A2-1 一切出なかった。日本はコーチも選手も紳士的で、非常に良く教育されている。

Q3 日本 - フランスでは被反則チームに反則の説明をすることなく、R の判断でどんどん進めていたが、いつもそうしているのか？

A3 特に TV 中継があるときは、試合を迅速に進めるためにそうしている。TV 中継がないときは、できるだけキャプテンに説明するようにしている。

川田注: TV 中継がない試合でも、選択が明らかなきはキャプテンには聞かずに R の判断で施行していた。

以上